

講演概要 (2016.1.13)

21世紀における海洋の問題を考える

(笹川平和財団海洋政策研究所長 寺島紘士 氏)

講演の最初に「21世紀における海洋をめぐる情勢」と題して、以下の4項目を記したスライドを示した。

- 1) 人間社会は海洋への依存を強めている。
- 2) 国際的空間である海洋の新秩序形成と持続可能な開発利用の取組みがグローバルなスケールで進められている。
- 3) 海洋をめぐる各国間の競争と協調が展開されている。
- 4) 各国の海洋力が問われている。

本日の講演の主旨は、上の1)、2)、3)の現状への対応を迫られている世界各国が問われている能力を総合的に表す概念として「海洋力」という言葉を新たに提案することにある。

本題では、特に、2015年に「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で定められた17項目の「持続可能な開発目標(SDGs)」の中で海洋にかかわっている「目標14:海洋・海洋資源の保全、持続可能な利用」の詳細を紹介した。

海洋をめぐる各国間の競争と協調が展開されている中で、我が国及び国際社会が、海洋という広大かつ一体的な空間とそこにある豊かな資源を保全し、持続可能な開発・利用をしていくために必要な能力、その中でわが国が国際社会で先導的役割を担っていく際に必要な能力を「海洋力」と名付け、その内容として、次の3項目を示した。

- 1) 海洋の総合的管理を行う力
 - ・海洋・沿岸域の調査・開発・利用・保全管理
 - ・海運、漁業、石油・ガス・エネルギー、鉱物資源、生物資源
 - ・海洋の環境、生態系、生物多様性の保全
- 2) 海洋環境を保全し、海洋を経済・社会活動、安全保障、レクリエーション等に活用する能力
- 3) 桁違いに広大・強力な自然の中で行動できる科学技術力

注) 本講演内容については、寺島氏ご本人が、氏のブログ「海洋政策は今 寺島紘士ブログ」の1月24日付け記事「NPO海ロマン21の新年会で『海洋力で世界をリード』提案」で紹介されているので参照されたい。

<http://blog.canpan.info/terashima/daily/201601/24>

(文責:市川洋)